



就労継続支援B型事業所 ワークセンター



目次

巻頭写真「ワークセンター」・・・ 1
 令和5年度事業計画概要・・・ 2
 新任のご挨拶・・・ 2
 ロザリオの聖母後援会より・・・ 6
 新厨房棟に寄附・・・ 7
 カトリック関口教会より手袋の寄附・・・ 7
 寄附者御芳名・・・ 7
 全国社会福祉協議会永年表彰を受けて・・・ 8
 静養室及び職員休憩棟設置完了・・・ 8
 地元を疾走！・・・ 8

第29回ロザリオの聖母会合同研修発表会に寄せて・・・ 9
 外国人材の受入れについて・・・ 10
 今年度の新入職員・・・ 11
 新任者紹介・・・ 11
 Photo Gallery・・・ 12
 ロザリオの聖母会次世代育成支援行動計画・・・ 13
 ロザリオの聖母会女性活躍推進法行動計画・・・ 14
 「私のオシメン」file12（旭市中央地域包括支援センター）・・・ 15
 職員・ボランティア募集のお知らせ・・・ 16

令和5年度事業計画概要

業務執行理事 白井正和

新型コロナウイルスの影響により法人運営は厳しい運営状況であったが、今年度は感染症に対する制限緩和と3年間のノウハウを生かした法人運営を行い、日常を取り戻していく。

□地域共生社会の実現に向けて

- ・地域住民と共同による、地域やコミュニティにおける支えあう関係性の育成
- ・社会福祉法に定める地域生活課題について、排除しない考え方に基づき、サービス利用者・社会的孤立・生活困窮、社会的脆弱性等に向き合い、社会とのつながりや参加の支援を行う。
- ・社会的な生活支援施策へのアプローチ
- ・福祉以外の多様な推進主体との協働により広い視野における活動

□重層的支援体制

- ・地域生活課題解決に向けて、各法制度の一体的な実施

□意思決定支援

- ・国連「障害者の権利に関する条約」の趣旨を理解するとともに
- ・個人の尊厳を重んじ、尊厳にふさわしい生活を保障する。
- ・可能な限り本人の自己決定を補うための支援を行い、本人の意向や信条を重んじる。
- ・意思決定支援ガイドライン（認知症、障害福祉、人生の最終段階、身寄りがいない人、成年後見）を理解・活用し経験を積み上げる。

令和5年度の重点目標として

- ① 感染症対策を踏まえた運営
- ② 地域共生社会目指した取り組み
- ③ 人材確保（障害者確保、外国人材、職員の適材適所）
- ④ 組織再編（執務役員制度導入）
- ⑤ 利用サービス
- ⑥ 働き方についての検討（週休2日制、定年延長）

新任のご挨拶

執行役員
施設入所事業責任者

聖家族園 園長 古山勇一

この度、「施設入所支援事業」執行役員を仰せつかりました。聖家族園施設長の古山勇一です。私は、平成5年に当会に入職し、今年で30年目を迎えようとしています。

最初の配属は海上療養所で准看護師として13年半勤務をさせていただきました。当時の海上療の仕事は、率直に「楽しい」の一言でした。患者さんも若く、キャッチボールや卓球などを行いながらの看護業務ですが、遊びのような感覚の中で、患者さんとの関係性を創り、共に悩みながらの充実した日々でした。

その後、現在の職場である聖家族園に主任として勤務し、知的障害者を中心とした障害福祉の実情を学べました。障害の世界は今までと異なり、苦労も多かったのですが、利用者のみなさんと共に創り上げる施設生活は、かけがえない財産となりました。

平成23年に聖家族作業所の所長の辞令を受け、地域における障害福祉の実際を確認することができました。比較的軽度の方もおり、ここでも共に悩み楽しむ時間を有意義に過ごすことができました。令和元年4月に施設長として聖家族園に戻り、日々奮闘の毎日です。この度、施設入所支援事業執行役員という名誉ある職責を拝命いたしますが、今日までの経験を活かし、運営を行っていききたいと思っております。

私が担当する施設は、聖マリア園、聖家族園、聖家族作業所となりますが、まずはこの施設が経営的に安定し、運営が円滑に推移していくことを目指します。利用者の生活の充実と職員が笑顔で意欲的に働ける環境作りを専念していきます。「のんびりと精一杯」努力していきます。よろしくお願いたします。

**執行役員
地域生活支援事業責任者
ナザレの家あさひ ナザレの家かとり
所長 荒井隆一**

ロザリオの聖母会に就職をさせていただき、早いもので四半世紀になります。その間、法人だけでなく、社会の在り方も目まぐるしく動いてきています。優性思想を含む、障害を持たれた方に対する考え方や権利に関して、社会全体における社会保障制度の見直しなど、私達の仕事はもちろん、私生活における影響も実感することがあるかと思えます。

そのような中で、ロザリオの聖母会でも新たな体制を構築し、現在の事業運営や支援体制の見直しをしていくことが必要不可欠となってきました。そのような流れの中で、このような職務に就くことになりましたので、今後は法人全体のことにしても視野を広く持ち、自分の力を発揮できるように努力していきたいと思えます。私はこの法人に働き始めたときに「一人の人のためにでもやりなさい」というようなことを教わり

ました。また、法人の創設者の方々は「海上寮は第一に神のものであり、第二に社会のものである。言葉を変えて言うところ、信仰の目で見れば神のものであり、地上の目で見れば社会のものである。具体的には、第一には患者さんのものであり、第二に職員のものである。これが小原ケイの精神であろう。そして、戸塚文卿神父の精神であったはずである。さらに、今後海上寮の精神であり続けなければならぬ。」というような想いを伝えてくださっています。

昨今の障害福祉の現場ではどうも支援者主体になっているのではないかと感じる事があります。先日出された国連の権利条約に関する総括所見においても「障害者が自分の生活に対して選択とコントロールを行使できるようにすること」が求められています。

今後も「私どもの職場では誰かがやるだろうという考えは捨てましょう。私の分野では無いということもやめましょう。気がついた人がやる。そのような人間の集まりでありたい。」という言葉を忘れずに、法人の理念を軸に運営に携わっていかれると思えます。

**執行役員
地域包括支援事業責任者
旭市地域包括支援センター
所長 井上創**

令和5年4月より執行役員に選任いただき、この度就任いたしました。もとより微力ではございますが、大変厳しい社会福祉情勢の中、一隅を照らす光となれるよう努力したいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

「地域包括支援事業」について

私が担当させていただくのは、「地域包括支援事業」であります。包括（ほうかつ）とは、「まるごと」という意味です。すなわち、地域全体で皆が丸ごと参加し、支え合い、包み込む世の中を目指す事業であり、活動です。障がいがある人もない人も、老若男女に関わらず、さまざまな方とふれ合い、活動していきます。誰ひとりこぼれ落ちることなく、皆さまが毎朝、気持ち良く起きられるように。つらくはないように。納得できるように。そんな世の中を目指したいと思えます。

「福祉」は誰がつくる？

福祉をつくっていくのは誰なのか。我々自身です。そのために、今年度は3つの目標を掲げていきます。

- 事業や事業所、施設の垣根を越えた地域づくりに取り組み
- 地域の人と人をつなぐ努力を惜しまない
- 将来の地域を担う人や世代を育む

先人の知恵を活かし、毎日に感謝しながら、広く、深く、豊かな生活、福祉を考えていきたいと思えます。



ロザリオ発達支援センター

所長 中野仁敦

この度、ロザリオ発達支援センター所長に着任した中野仁敦（きみのぶ）と申します。

私は、平成8年に聖マリア園に入職し、その後聖ヨセフつどの家、聖母通園センターを経て、4事業所目となります。

入所施設から通所事業所に異動になったときは利用者と関わる時間が限られることに不安がありました。しかし、限られた時間でも月日を積み重ねていけば関係を築けること、通所事業所は利用時に楽しく過ごしてもらうための雰囲気作りや創意工夫が大切なこと、時には職員が体を張って利用者の笑顔を引き出す関わり方を学ぶ体験をしました。おかげで利用者と共に毎日笑って過ごすことができました。

さてロザリオ発達支援センターの歴史は、昭和63年聖母療育園院内託児所「ふたば保育園」として事業を開始しました。平成23年には東日本大震災でふたば保育園が

半壊し、聖母療育園会議室及び聖母通園センター2階に移し事業を継続しました。その後平成27年に障害児の通所事業と相談支援事業を併設した「ロザリオ発達支援センター」が設立され、児童発達支援センター（ふたば保育園）及び放課後等デイサービス（ふたばクラブ）と障害児相談・計画相談を展開してきました。

昨年度よりふたば保育園を多機能事業化し、今年度よりふたばクラブを休止、ふたば保育園の定員を増加しての事業継続をしております。また、相談事業においても計画相談を法人内他事業所に移管し、障害児の基本相談・療育相談に特化した新たな相談体制を整えていくことになりました。

今日までの先輩達が築かれたように、ご家族の思いに寄り添い関係機関と連携しながら適切な支援を提供し子供達の成長を応援していきたいと思えます。また子供達にとって通所することが楽しみであり、ご家族に安心して利用していただける場にしていきたいと思えます。まだまだ未熟者ではありますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

聖マリア園

園長 飯島広司

私は、平成7年に聖マリア園に入職し、平成10年より聖マリアデイサービスセンター（当時は聖マリア園と別事業）、佐原聖家族園を経て、この度、聖マリア園の園長を拝命いたしました。

聖マリア園では、実に25年ぶりの勤務となり、新たなスタートへの緊張と、故郷に帰るような懐かしさを感じながら今日を迎えています。

聖マリア園は1991年4月に開設し、33年目を迎えており、設備の老朽化等により様々な改修、増築や新たな設備の導入が行われてきました。その一つひとつから、施設のこれまでの歩みを感じることが出来ます。この間、福祉制度の大改革等により施設を取り巻く環境は大きく変わり、施設の在り方や利用者の皆様への支援の在り方も大きく変わってきました。しかし、ふと法人の歴史に目を向け、先人の言葉を辿ると、純朴な気持ちで人と人が向き合い、

どのような状況下においてもゆるぎない理念のもとに法人の歴史を積み重ねてきたことがわかり、まさに琴線に触れる思いがいたします。

施設が生い立つ過程において、いくつもの転換期がありますが、未来に思いを馳せるだけでなく、しっかりと過去を見つめ直し、変わる勇気と変わらぬ強い意志を併せ持つことの重要性をあらためて実感しております。

聖マリア園が今日まで積み重ねてきたこと、携わってきた方々の思いを大切にしつつ、新たな一歩、新たな挑戦への強い意識を持ち、笑顔と笑い声の絶えない毎日を利用者の皆様と共に過ごしていきたいよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



就労支援事業責任者 みんなの家

所長 辻内 理章

令和5年度より、障がいのある方の就職支援や定着支援、また社会生活の自立に向けた支援を実施している事業所(みんなの家・ワークセンター・東総就業センター・香取就業センター)の責任者というとても重大な任務を受けました。

ロザリオの聖母会においては、1996(平成8)年に時代と法人の複合施設化の流れの中で、福祉病院として精神障害者対策の多角化を目指し、医療と福祉の両側面から総合的な支援体制を検討され開始されたのが無認可の精神障害者小規模作業所でした。(現在のワークセンター)その翌年1997(平成9)年には、特別支援学校(当時は養護学校)の卒業後に日中だけ福祉サービスを利用したいという親御さんの希望から知的障害者通所授産施設『みんなの家』が設立されました。時代の流れに伴い、居場所として作業所から福祉的就労の場への転換を

徐々に図る中、2007(平成19)年に障害者就業・生活支援センター事業を受託、広域に障がいのある方々の就労支援を企業やハローワークと連携を図り、一般企業に就職するための支援と働き続けるための支援を実施してきました。

2011(平成23)年においては千葉県内に14か所障害者就業・生活支援センター事業が設置され、ロザリオの聖母会も海匠圏域を担当する東総就業センターと香取圏域を担当する香取就業センターと2事業所での事業受託を受け実施してきました。

これからも社会情勢等に見合った施設・事業所運営を意識しつつ、その人の働きたい気持ちや人生に関わることの大切さの意識をもって、法人から受けた職務に努めてまいりたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

香取地区福祉事業責任者 佐原聖家族園

園長 杉田 明

この度、佐原聖家族園園長ならびに香取地区福祉事業責任者を拝命いたしました杉田です。1年目は聖家族園において、ご利用者の生活を支える基礎基本を学びました。2年目は現在勤務する佐原聖家族園に異動し、同時に高萩福祉センターの開設準備室の命を受け、支援現場の傍らで新たな事業の立ち上げという重責を担わせていただきました。3年目の7月には聖ヨセフつどの家の所長の命を受け、生活介護事業と放課後等デイサービスの多機能型事業所の運営を約7年間勤めて参りました。その後、法人本部において事務長職を拝命し法人全体の動きを見るときともに、新卒採用や定着のための面談、さらには法人全体の人材育成を担当いたしました。法人本部に異動した直後は台風15号の脅威と向き合い、その冬には新型コロナウイルスという未知のウイルスと正面から向き合ってきました。

どの場所においても、ご利用者やご家族、そして共に働く上司や同僚、さらには関係機関や業者の方たちから、より多くの支援をいただき、現在の自分があることを実感し感謝の念に堪えません。ロザリオの聖母会に入職して12年目の春を迎え、新たな重責を拝命し身の引き締まる思いです。

4月1日に佐原聖家族園に着任し、少し早い春に一齐に咲き誇る園庭の桜を眺めたとき、コロナ禍で制限され続けた生活を再建することや人材不足への対応への不安が少しだけ和らいだ気がしました。そして、園内に入り落ち着いた雰囲気の中で、全ての職員がご利用者一人ひとりとしっかり向き合っている姿を見て、新たな息吹を感じることができたことは大きな喜びです。

持続可能な社会の実現に向け、さらには地域共生社会構築の一つの重要な拠点として、これまでの取り組みを振り返り、関係するすべての人と語り合いながらじっくりと進んでいきたいと存じます。引き続きご指導ご支援のほどお願い申し上げます。



ロザリオの聖母後援会より

喫茶ひまわり厨房エアコン購入 みんなの家

令和4年度『後援会』活動におけるご寄附を賜り、障がいのある方や職員が快適に作業活動を行えるように『喫茶ひまわり』の厨房に新しくツインエアコンを購入させていただきました。

日頃から皆様には『喫茶ひまわり』をご利用いただき感謝申し上げます。また、法人内の施設・事業所の方々や地元の皆様からもお弁当や焼き菓子等をご注文いただき大変嬉しく思っております。これからも感謝の気持ちを忘れることなく、日々精進させていただきます。ご利用いただくとお思います。ご利用いただく皆様に対して“安心・安全・安定”を目標に掲げ、今後も商品開発に努めてまいりたいと思っております。

令和4年度当初に『喫茶ひまわり』の厨房拡大工事を実施し、作業能率向上と衛生面の向上を改善することができましたので、工賃



向上に向け職員・利用者一丸となって取り組んでいこうと思います。

あらためまして、みんなの家の運営に賛同いただき、ご寄附いただきました後援会の皆さまに感謝申し上げます。大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

下立ハウス屋根外壁等改修工事

ナザレの家あさひ

ナザレの家あさひでは、令和4年度「後援会」活動におけるご寄附を賜り、下立ハウス屋根外壁等改修工事を実施させていただきました。

下立ハウスは、建築後31年が経ち、雨、風、台風、塩害、地震などの過酷な環境にも耐えてくれましたが、ここ数年で、外壁塗料の劣化、壁のひび割れ、強風時の雨漏りがありました。また、震災により利用者さんの居室と廊下に段差ができてしまっており、床をフラットにする工事をさせていただきました。



改修前



改修後



床のフラット化

きました。あらためまして、ご寄附いただきました後援会の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございます。

新厨房棟に寄附

聖家族園

ダイニングテーブルセット

3月に聖家族園中庭に新たに厨房が完成しました。2階にある職員食堂に、嘱託医である城之内医院の江波戸先生よりダイニングテーブルセットをご寄附いただきました。

温味のあるデザインで、椅子も座り心地が最高で、ホッと一息つける場所となりました。心より感謝致します。ありがとうございます。



大型冷蔵庫

聖家族園中庭に新しい厨房が完成しました。現在、新たな気持ちで業務に励んでおります。

この度、大型冷蔵庫は聖家族園家族会より、ご寄附いただきました。大容量でたくさんのお食材が保存できます。今後、ますます利用者みなさんに喜ばれる食事を作っていくきたいと思います。

家族会の皆様、本当にありがとうございます。大切に使用させていただきます。



◆新厨房棟完成につきましては、次号にてご紹介させていただきます。

カトリック東京大司教区 菊地功大司教様ご紹介 関口教会より手袋の寄附をいただきました。



「皆で手分けして作業しました。作業が終わった後、主任司祭の天本神父様が手袋を祝別してくださいました。手袋を使う方みんなに、神様のお恵みがたくさんありますように。」
関口教会 教会学校より



寄附者御芳名

令和4年
1月1日
～
3月31日

江波戸 隆 夫 様

聖心女子学院五月会 様

ウエスレアン・ホーリネス教団

旭キリスト教会 様

上野 美津代 様

聖心会かしの家 様

カトリック関口教会

教会学校 観世静子 様

旭地区遊技場組合

組合長 小川憲二 様

小川 恵 子 様

ヒゲタ醤油(株) 様

旭市役所 社会福祉課

障害福祉課 様



全国社会福祉協議会永年表彰を受けて
 海上療養所 病棟診療部 准看護師 實川米子

この度、全国社会福祉協議会より永年表彰をしていただき誠にありがとうございます。

昭和58年に入職、当時の法人施設は海上療養所だけでした。39年間に施設も増え発展してきました。

私が39年間、海上療養所で働き続けられたことは諸先輩方、上司の方々、そして同僚・後輩の皆様方に恵まれ支えられてきたおかげだと思っています。

現在、コロナウイルス感染拡大の中で感染対策を継続しながら一日一日を大切に、気持ちを引き締め頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございます。



静養室及び職員休憩棟設置完了

佐原聖家族園 園長 杉田明

利用者の高齢化・重度化に伴い、急激な体調悪化等が多くなり、そのような際の見守り強化による安心感や安全性の向上等を目的とし、令和3年度に夜間でも職員が在中する支援員室隣の職員更衣室・休憩室を取り壊し、静養室の整備と医務室を拡大する工事を行いました。(第163号にて掲載)

このことにより、既存の会議室を職員の更衣室として代用しておりましたが、今年3月、新たに職員休憩棟が完成いたしました。

この一連の工事は、職員休憩棟を建設した後に、静養室設置及び医務室の拡張工事を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により工事順序(優先順位)等を変更し約2年の歳月を経て完了に至ったものです。

開設から20年以上が経過し、佐原聖家族園で生活する利用者の皆さんの身体状況も大きく変わっています。今後、新たに導入が必要な設備や改修を必要とする設備はますます多くなることが予想され



ます。必要な整備を都度行うことは難しいことですが、一つひとつの必要性を吟味し、安心して生活していただける環境を順次整えていきたいと思っています。

今年も佐原聖家族園自慢の桜が奇麗に咲きこぼれる季節を迎えております。お近くにいられしやる際には、是非お立ち寄りください。桜の下で、コーヒーでもいかがですか。

地元を疾走!

ナザレの家かとり 逸見諭

2月5日(日)に旭市飯岡しおさいマラソンが3年ぶりに開催されました。ロザリオ陸上部からも数名の職員が参加しました。

当会の近くが折り返し地点となっている5kmの部では40代の2名が入賞。また、親子マラソンの部でも1名入賞しました。

コロナ禍以降、クラブ活動が行えていませんが、事業所の枠を超えた繋がりを持てるのも、クラブ活動の良さです。また以前のようにそのような機会が来ることを願っています。



第29回ロザリオの聖母会合同研修会に寄せて

海上療養所 院長 加瀬光一

去る3月4日合同研修会が開催されました。コロナの影響で実質中止の状態が続き、リモート開催ではありましたが、発表の様子をお伝えでき、大変喜ばしく思います。本部にも大変ご協力いただき、多少のトラブルはあったものの概ね滞りなく進行できました。できれば質疑応答があればよかったです。次回の課題ということになるでしょうか。コロナ対策などで皆様慌ただしい中6本の発表が集まりました。大変だったことと思います。お疲れ様でした。

第1席理事長奨励賞には佐原聖家族園「メダルを通して伝えたい」佐原のメダリスト誕生物語」が選ばれました。詳しい内容は会報にお譲りしますが、会話による意思の疎通が難しい方の補助にプラスチック製のメダルを使って効果を上げたという内容です。本会のような組織で研究発表会を開くこと、その目的は、何より日頃の活動を自分なりに整理し、より良くする姿勢を維持していくことではな

いかと思います。漫然と続けるだけではどうしても閉塞してしまいます。そのことを体現したような内容でした。素晴らしかったと思います。

第2席敢闘賞には聖母療育園「ロザリオ法人内施設を対象とした訪問歯科診療の取り組み」が選ばれました。骨粗鬆症の治療薬で顎骨壊死をきたすことがある、そのチェックも必要ですというのが1つの注目点だと思われませんが、訪問歯科診療の活動そのものに目が奪われました。畳の部屋で歯科診療が受けられます、歯周病を治療することで糖尿病も治療できるかもしれない（だから歯を磨いてね）という主張には新しい息吹を感じます。

個人的には友の家「精神障害のある方の地域移行について」が気になっていきます。1988年アメリカの大解放を目の当たりにした経験が忘れられません。当時のアメリカは今の日本と同じように経済的にも行き詰っており、精神

科を取り巻く環境は今の日本よりもひどかったのではと思えるくらいの状態でした。サンフランシスコの町の一角はスラム化して麻薬中毒者の巣窟と化し、近くの道を通ると女の子が抱きついてきて、強引に売人のところまで連れて行くとうとうします。テレビは5分おきに麻薬は危険です、止めましょうの広報を流していました。市役所前の坂道には大勢の精神病院を追われた老人たちが首から「私はパーキンソン病です」と書いたプラカードを下げて物乞いをしており、列ははるか坂の頂上まで続いていました。彼らは市役所近くの広場で、若者に交じって段ボール製の小屋で浮浪者をしていました。80歳ぐらいの白人女性の退院に立ち会いましたが、看護師と抱き合いながらお互い長い間泣きじゃくっていました。まさにアメリカは喘いでいました。私は見学先の州立精神病院のスタッフ達にこんな無責任なことをしてと食ってかかりました。彼らは「お前は過保護だ、何が大切か見えていない。」といい、最後は決まって「アメリカ人には狂う権利もあるんだ。」といいました。それが強い

信念から出た言葉であることは彼らの様子から解りました。人気がなくなった巨大な精神病院の中で彼らの周りに光が見えている気がしました。狂う権利とはおそらく人間らしく狂えるということだと思えます。彼らを照らしていた光は世界中を駆け巡り、日本だけが取り残されました。世界中の精神科医の「私たちはやり遂げた」的な発表に苦い思いをしてきた先生方も多かったでしょう。いよいよ日本の番です。苦しい時にこそ良いものができると信じています。日本の精神科医療に幸多かれと願いつつ、友の家さんと手を携えて変化にあたらそうと覚悟しなおした次第です。



外国人材の受入れについて

ナザレの家あさひ 主任 小篠篤央

Jan Kieu (シンチャオ)。シン

チャオはベトナム語での日常挨拶になります。ナザレの家あさひでは、外国人材の受入れを行っており、常勤職員として現在、5名(女性3名、男性2名)の方と一緒に働いています。ベトナム国籍の技能実習生2名、特定技能として3名の方が働いていますが、皆様へ最初に伝えたい事は、介護人材としてナザレの家あさひの職員として大きな力になってくださっているということです。非常に真面目に仕事に取り組んで下さり、一生懸命に学ぼうとする姿勢や覚えようとする意欲は非常に高く、倫理的に相手を尊重することや勤務態度、マナーなどは私たちも見習うべきところがたくさんあります。何より利用者の方への丁寧な関わり、支援をしてくださり、利用者との信頼関係も築いていくことができ、利用者の方からは「今日いなくて寂しいね」という声を聞くこともあります。

外国人技能実習制度は、定めら

れた期間の中で、日本で技術、技能、知識等を学び自国へ持って帰るということ。開発途上地域等への移転を図り、経済発展を担う「人づくり」に寄与するという国際協力の推進が大きな目的となります。一方、特定技能制度は2019年4月から導入されている新しい在留資格で深刻な人手不足と認められている業種に限り、外国人の就労が可能となりました。

現行の制度に沿い、法人として2021年11月に特定技能1名、2022年6月に技能実習2名、そして昨年12月に特定技能2名の方が採用されています。最初は言葉の違い、文化の違い、コミュニケーション手段など見えないものに対する不安が大きかったです。ただ、一緒に働きはじめて私たちが感じることは、皆さん明確な目標を持ち、その目標を叶えようと必死に努力をしている姿があるということです。ナザレの家あさひでは、職員一体となって日本語教

育を行っています。また、業務について一つひとつ丁寧にわかりやすく教えていくことを実践しています。これは外国人だからではなく、私たちも同様に新職員に対してきちんと行っていかなくてはならない大切なことであると改めて感じています。

外国人材の受入れに伴い、技能実習生には監理団体が特定技能は登録支援機関が入り、必要なサポート等を行ってくださいますので、2つの機関が職員や事業所のスーパーバイズの役割を担っているため、定期的に受入れに関する必要なことを相談しながら、日本で働く外国人材のサポートを行っているところも1つ安心して働いてもらうために大事な繋がりとなっています。

外国人材の受入れを考えることは、新しいことへのチャレンジでした。経験のないこと、新しいことを進めることは大きな勇気が必要になることだと思います。私たちは、最初の一步を踏み出すことができ、法人にとっても事業所にとってもプラスとなり、皆様にご理解とご協力をいただきながら雇

用に繋がった経過がありました。このご縁を大切に「ロザリオの聖母会で働いて良かった。これからも働いていきたい。」と思ってくださるように、同じ法人や職場の仲間として今後も一緒に仕事を取組んでいきます。今回の外国人材の雇用は、今までの価値観や考え方を見直す大きなきっかけにもなりました。従来の考え方に捉われず、今後も色々な分野、場面の可能性にチャレンジできるようにしていきたいです。



今年度の新入職員

海上療養所



精神保健福祉士
佐藤 恵梨香

4月より海上療養所に配属となりました。社会人になり、不慣れた土地ということもあり、不安はあります。関わらせていただく方々から多くのことを学び、少しでも力になれるよう、精一杯頑張ります。

聖家族園



支援員
山本 佳代子

利用者の方ひとりが喜んでいただけるような支援をしたいと考えております。迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、期待に応えられるよう日々精進して参ります。よろしくお願いいたします。

みんなの家



支援員
小野澤 祐人

4月よりみんなの家で勤務させていただくこととなりました。緊張してしまい失敗することが多いと思いますがみなさまのお力になれるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

聖ヨセフつどいの家



支援員
齋藤 陽介

4月より聖ヨセフつどいの家に配属となりました。新しい環境に不安も大きいですが、先輩方に優しい利用者の皆様の充実した生活と笑顔のために精一杯努力して参ります。よろしくお願いいたします。

新任者紹介

海上療養所



医師
茂木 伸一

3月より勤務させていただいています。急性期医療の経験も長く、海上療養所と違って心強い限りです。旭周辺は初めてのことです。おいしい店など探し中とのことです。どうぞよろしくお願いいたします。



看護師
林 杏奈

4月より看護師として勤務させていただきます。他病院で培った経験を活かしつつ、精神科看護の場面においても活躍できるよう頑張っております。

聖母療育園



正看護師
島田 拓平

明るい性格と穏やかな雰囲気、利用者みんなを笑顔にしてくれる方です。新しい知識と若いパワーで今後活躍してくれることを期待しています！



支援員
平野 絵里香

数年ぶりの聖母療育園復職となります！経験と持ち前の明るさで利用者みんなを笑顔にしてくれると思います。

聖家族園



支援員
野中 裕文

利用者の方々と、笑顔で明るく関わりをもつて過ごしてきています。これからも優しく元気に頑張ってください。期待しています。



ロザリオ高齢者支援センター



介護支援専門員
林 京子

2月から常勤に変更となりました。しばらくケアマネ実務からは離れていたこともあり、プランクを取り戻そうと毎日フル回転です！

法人本部



事務員
崎山 亜衣

前職で忙しい業務の傍ら勉強してきた簿記の資格を活かして、活躍してくれることを期待しています。



調理員
萩原 遼

調理の仕事は初めてのことですが、美味しい食事をお届けできるように頑張ってください。

入社式・辞令交付式



新入職員 7名

入社式・辞令交付式



執行役員 3名



Photo Gallery

★聖母通園センター★



鬼のお面良くてきたてしょ!



利用者さんも通園の鬼たちも
最後はにっこり

★聖母療育園★



トランポリンの上でリラックス♪



バレンタインデー♡



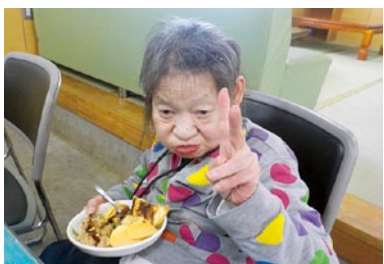
鬼は外福はうち～
鬼は外福はうち～♪



鬼になりきり大きな金棒を
持ち上げました～!!

★聖家族園★

グループごとにはパーティー♪



豪華なお弁当とおやつに、
みんな大満足&満腹です!!

★聖マリア園★



鬼は外
福は内
!!!!



鬼をやっつけろ



今年の鬼は一味違う!?

マリアデイサービス



♪ふ～たりならんで
すましがお～♪



福笑い完成!

ロザリオの聖母会女性活躍推進法行動計画

女性はその個性と能力を十分に発揮して職業生活において活躍することが、一層重要となっていることに鑑み、男女社会基本法の理念にのっとり、次のように行動計画を策定する。

- 1 計画期間 2021年4月1日から2024年3月31日の3年間 第3期(2021、2022、2023年度)

2 内容

目標1【管理職(課長級以上)に占める女性割合を40%以上を維持する。】
①中間管理職基礎研修を積極的に活用する。
②育児、介護、家庭、地域、自己啓発等職員の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に柔軟な職場環境を整える。
③10項目の点検とその評価に取り組み、その内容を内部へ周知し外部へ公表する。

目標2【有給休暇取得率60%以上を維持する。】
①年次有給休暇の取得率を60%以上を維持する。
②育児、介護、家庭、地域、自己啓発等職員の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に柔軟な職場環境を整える。
③10項目の点検とその評価に取り組み、その内容を内部へ周知し外部へ公表する。

3 対策

- ・法人の月報(職員向け広報紙)や法人内LANを活用して周知・啓発を実施します。
・10項目の点検評価を実施し、管理者に報告します。また、点検評価を内部へ周知し、外部へ公表します。

ロザリオの聖母会では、女性の活躍に関する状況把握として以下の10項目の点検とその評価に取り組み、その内容を内部へ周知し外部へ公表します。

【基礎項目】

Table with 4 columns: Item No., Description, Period, and Values. Items include: 1. Female ratio in employees, 2. Gender difference in average continuous service years, 3. Working hours status, 4. Female ratio in management positions.

【選択項目】

Table with 4 columns: Item No., Description, Period, and Values. Items include: 5. Female ratio in employees (by division), 6. Education training status, 7. Working hours and leave acquisition, 8. Career advancement ratio, 9. Consultation status, 10. Career challenge results.

私のオシメン file 12

【出身地】 千葉県銚子市
 【職歴】 2014年4月～聖家族作業所（支援員）
 2017年4月～海匠ネットワーク（コーディネーター）
 2018年6月～みんなの家（支援員）
 2019年4月～東総就業センター（生活支援ワーカー）
 2021年4月～旭市中央地域包括支援センター（社会福祉士）
 2023年4月～東総就業センター（生活支援ワーカー）
 【資格】 社会福祉士



入職したきっかけは？



1 家族が福祉関係の仕事をしており、自然と福祉の道を志すようになり、福祉系の大学に進学しました。大学卒業後の進路を考えたときに、自分の慣れ親しんだ地域で仕事がしたいと思い、大学卒業後、社会福祉士の資格を取得し、地元から近く地域で名の知れた「ロザリオの聖母会」に就職しました。



ロザリオの聖母会の魅力は？



2 法人では様々な事業に取り組んでおり、障害分野だけでなく、児童分野・高齢者分野の事業も展開しているので、幅広い業務に携わることができます。現在、高齢者分野の業務にあたっていますが、以前は障害者の就労支援の相談員や通所施設の現場職員などを経験しており、さまざまな分野の経験をつむことができました。また、行事やイベントを通して、法人内の職員だけでなく、地域の方々ともつながることができるのも魅力に感じます。



今後の意気込みは？



3 常に「向上心」を持ち業務に励んでいます。社会福祉士の資格を取得し、ソーシャルワーカーになることは私が10代の頃からの夢であり目標でもありました。今の自分に満足せず、これまでの経験をいかし、さまざまな分野の相談支援ができるように、これからも精一杯業務に励んでいきたいと思ひます。



《職員募集のお知らせ》

ロザリオの聖母会では、「光のあたりにくい人々とともに歩む」という経営理念の下、多様な福祉サービスを総合的に提供できるよう、複合施設を運営するとともに、地域生活支援のため訪問、相談サービス事業等も実施し、利用者の豊かな地域生活を支援するよう努めています。職員の福利厚生、研修、育児介護休業制度等働きやすい環境づくりにも取り組んでいます。

□2024年4月新卒職員募集

職種	事業所	採用数	資格
支援員	障害者支援施設 (入所系・通所系)	20名	短大専門卒以上 普通運転免許

- 既卒3年以内の正職員も上記と同条件で随時募集中！
- 障害児者医療に携わる看護師も随時募集中！

・応募 随時面接を行っておりますので、法人本部採用係までご連絡ください。

0479-60-0600(担当/採用係)

ボランティア募集のお知らせ

ロザリオの聖母会では、施設や利用者のために常時ボランティアのご協力をお願いしています。お願いのできる方は是非、ご連絡ください。ご協力をお願いします。

問い合わせ

TEL 0479(60)0600
(担当 ボランティア係)

職員募集のお知らせ

精神科、障害児者医療に携わる看護師を募集しています。

◆随時面接を行っておりますので、本部事務課までご連絡ください。

TEL 0479(60)0600
(担当 採用係)

本誌のバックナンバーを
ロザリオウェブサイトを
(<http://www.rosario.jp>)
に掲載しています。

医療保護施設

海上療養所

訪問看護ステーション

ワークセンター

聖母療育園

聖母通園センター

ロザリオ発達支援センター

旭市子ども発達センター

障害者支援施設

聖マリア園

障がい者の就労促進事業所

みんなの家園

生活介護事業所

聖家族作業所

共同生活援助事業所

ナザレの家あさひ

旭市中央地域包括支援センター

高齢者支援事業

ロザリオ高齢者支援センター

通所介護・介護予防通所事業所

ロザリオ訪問介護事業所

障害者支援施設

佐原聖家族園

生活介護・放課後等デイサービス

聖ヨセフつどいの家

共同生活援助事業所

ナザレの家かとり

地域生活支援センター

友の家

中核地域生活支援センター

海匠ネットワーク

障害者就業・生活支援センター

東総就業センター

香取市相談支援センター

香取障害者支援センター

障害者就業・生活支援センター

香取就業センター



このロゴマークは、師イエズス修道女会 北爪悦子修道女 により作成されました。